

イーナカサイ

『なにかはじめたくなるまち、加西』



地域振興部
きてみて住んで課

〒675-2395 兵庫県加西市北条町横尾1000番地
TEL：0790-42-8764 FAX：0790-43-1802
e-mail：kiteka@city.kasai.lg.jp

www.city.kasai.hyogo.jp

Facebook で情報発信中 !!

なにはじ
コミュニティ
加西グループ



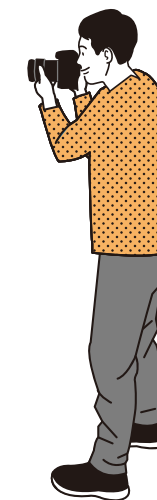
hito×hito をつなぐコミュニティ、あります。

なにかはじめたくなるまち、 加西

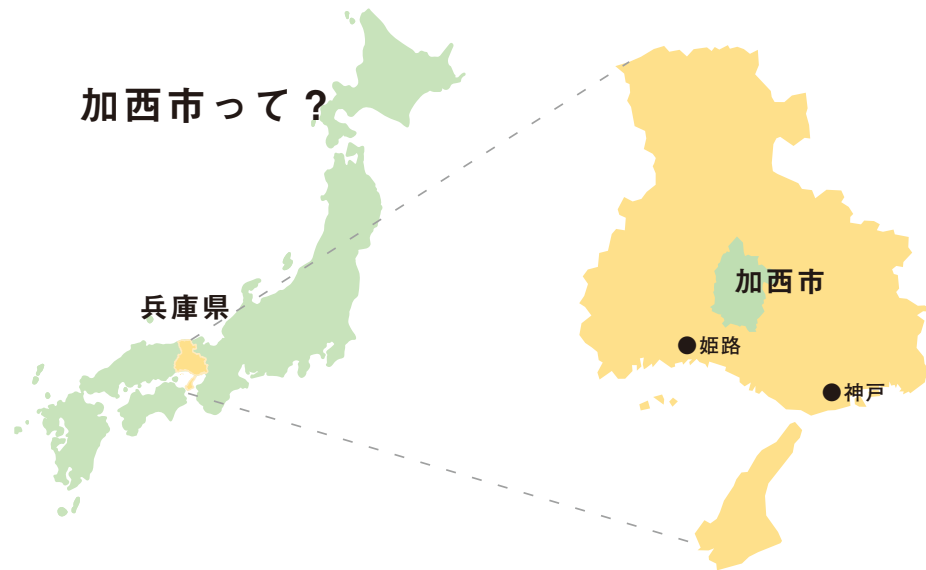
兵庫県加西市

vol.2

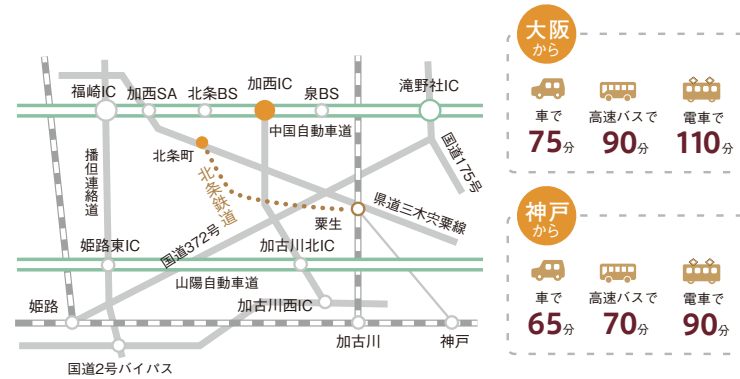
“出会いのお昼”編



加西市って？



加西市は兵庫県のほぼ中央に位置し、大阪・神戸など関西都市圏からのアクセスもしやすく、車がなくても電車やバスで来ることのできるまちです。



加西市は田舎すぎず、都会との距離も離れすぎず、ちょうど良い「ミライナカ」なまち。

都会とのアクセスも良好で、自然と都市とのバランスが良い。高度な技術と独自性でグローバルに活躍する企業が立地する一方、新しい農業に取組む環境も充実しています。また、スポーツ・文化活動など老若男女が地域で活躍できるまちです。

豊かな自然が身近にありながら、買物・医療・教育といった毎日の暮らしに必要なものも身近にそろっており、生活の利便性の良さを感じながらのびのびと子育てができます。

加西市は、都市との距離感と便利さを兼ねた住み良いまちです。

「昼」の顔もイイ、加西



なにはじコミュニティ 2020 年活動紹介



2019 年からスタートした加西市で「なにかをはじめたいひとたちを応援する」なにはじコミュニティ。2020 年はコロナ禍の影響もあり、当初計画していた部活動（おうち部、おソト部など）の実施ができず、限られた条件の中で以下3つの活動を進めてきました。

1) 参加者どうしのつながりを創り出す継続的な交流会「オンラインなにはじ café」や定期的な交流会、感染対策を意識しながら、2) 加西市で魅力的な取り組みをしている「カサイスト」の取材と web マガジンでの情報発信。取材からみつけてきたカサイストのお困りごとの解決に向けてお手伝いする 3) TETTAU チャレンジ など取り組んできました。

引き続き、with コロナでの加西市のファンを創り出し、関係性を深め、なにかをはじめたいという関わる人の想いをカタチにできるようメンバー一同取り組んで参ります。

※TETTAU（てったう）とは、播州弁で「手伝う」の意味



1) オンラインなにはじ Café

毎月 1 回開催（毎月最終土曜日 20 時半から）される参加者どうしのつながりを創り出す継続的な交流会「オンラインなにはじ café」や定期的なコミュニティビジネスの勉強会（なにはじビジネスグループ）を開催しました。

2) カサイストの取材と発信

本冊子と web サイトにて取材させて頂いた 16 組のカサイストをご紹介します。

3) TETTAU チャレンジ

カサイストの取材から発掘されたお困りごとの解決に向けて、都市部から参加して頂いたなにはじメンバーが具体的な TETTAU チャレンジをしてくださいました。

小山さんのなにはじ KITCHEN

・食品衛生デザインオフィスの西村さんのお困りごとである桃のピューレ在庫を活用した商品開発とソーシャルキッチン・カフェ O Cha no Ma を活用した販売や都市部シェアキッチンでの販売支援に取り組まれました。

氷上さんの短期滞在型 TETTAU

・将来的な加西市への移住を目的とした京都市と加西市での二地域居住を開始。HOJO MACHI HOSTEL にて週末お手伝いをしながら、地域との関わりを模索しました。

飲食店



はりまのちっちゃな台所 深田 美香さん

加西市内にあるバイキングレストラン「ええもん王国」とレストラン「はりまのちっちゃな台所」経営。加西に生まれ、洋服店をはじめた祖父と事業を広げた父の背中を見て育った。大学時代は県外で過ごしたが、地元が好きで U ターンし、従業員として家業を手伝うことに。

市内に大型商業施設ができ、洋服だけではやっていけないからと、店舗を改装して飲食

店を構えたのが「ええもん王国」だ。

経営を任されたものの、飲食店のノウハウはゼロ。「なんとかしないと」と考えたのが、効率のよいバイキングだった。でも、やるなら他にないことをやりたい。スタッフは主婦、つまり家庭料理のプロぞろい。土地の肥えた北播磨地域は育つ野菜もおいしい。それなら、地元の新鮮野菜をふんだんに使った手作りにこだわろうと思った…… ▶



深田さんご紹介の
続きはこちら



岡田さんご紹介の
続きはこちら

加西の土壌で育ったトマトは、酸味が少なくまるみのある味をしていておいしい。そんなトマトを育てる農家の中でも長い歴史を持ち、“加西とまと”のリーダー的存在と言われているのが「岡田農産」だ。

その二代目である岡田毅さんは、2013 年に「岡田農産」を法人化し、設備を整えたり農地面積を増やしたりと積極的に活動している。トマトだけでなく米も育てており、酒米

の山田錦は各地の酒屋からも好評だ。

先代がトマトづくりを始めたのはおよそ 60 年前。自然の土を使って育て、水稻との輪作をする加西独自の栽培法が特徴だ。

1997 年から就農した岡田さんは現在、水稻の代わりにヒエを栽培している。手間のかかりそうな手法だが、なぜ輪作を行っているのか尋ねると、丁寧に教えてくれた…… ▶

農業



岡田農産 岡田 毅さん

食品加工



食品衛生デザインオフィス 西村 章さん

加西においしい甘酒を作る方がいる、そう聞いて訪れたのが食品衛生デザインオフィスの西村さん。「生まれてこのかた 66 年、ずっと食を追究してきました」と話す西村さん。

幼い頃から家の農作業を手伝い、食卓には畑で採れた野菜が並んでいた。

祖母が甕で仕込んだ甘酒をよく口にしていたし、栄養士の叔母は、当時まだ珍しかったハンバーグなどハイカラな料理を作ってくれた。

そんな環境で育ち、自然と食に興味を持った。小学 4 年の時、調理実習で覚えたカレーピラフを家でも作り、家族に食べさせたら大好評。「うまい！」そのひとことで、一気に食への道が開けた。

栄養士の養成学校に進み、すし屋で修行を積んだのち、弁当屋に就職。長年にわたり、商品の企画開発から食品の品質管理、営業までひと通りの業務をこなしてきた…… ▶



西村さんご紹介の
続きはこちら



北本さんご紹介の
続きはこちら

90 余年以上の歴史を持ち、戦時中も竹やぶの中で生き抜いたというにんにく、ハリマ王にんにくをご存知だろうか。

ずっしりと詰まった実は、からくて、にんにくの香りが高く、うまい。ほかの品種にはなかなか無い強烈なにおいと旨味が特徴的。まさに“王”の名にふさわしいにんにくだ。

「北本ファーム」は、そんな伝統のハリマ王にんにくを今日まで守り続けてきた。2019

年から法人化し、専業農家として全国へ在来種の良さを発信する北本奇世司さんは、その四代目にあたる。

曾祖父の世代から農業を営んでいた北本家にとって、農業はもともと生活の中にあるもの。大変な農作業も、昔から行っている当たり前のことだった。奇世司さんは、先代が亡くなった 7 年前から「北本ファーム」を継ぐことになる…… ▶

農業



北本ファーム 北本 奇世司さん・千恵さん

飲食店



ごはん屋なつぼし 藤井 朋枝さん

加西市北条町のまちなかに近い「ごはん屋なつぼし」。広々とした居心地のいい空間で、地元の野菜をたっぷり楽しめるのが魅力の“ごはん屋”だ。

店長を務めるのは、ごはんを作っていると きも食べているときも、真剣なまなざしと確かな分析力が印象的な藤井朋枝さん。長年福祉施設の栄養士として働いていた彼女は、きつと根っからの料理好きなのだろうと思った。



藤井さんご紹介の続きはこちら



田居さんご紹介の続きはこちら

淡い黄色の外装、水色の曼荼羅が特徴のキッチンカー。「一番のこだわりは外見。そこまで上手に塗っている訳じゃないけど、色の組み合わせで楽しい雰囲気になるかなって。自分で選んでデザインしました」柔和な笑顔で話す田居史江さん。「アジアンキッチン Tantra」のオーナーとしてナンバーガーを販売している。

キッチンカーで初出店したのは、2020 年

6 月 23 日のこと。加西市のフリーマーケットに参加したそうだ。「記念すべき日なんです」と初出店のことを鮮明に記憶する姿が印象に残る。その後、多くの「ご縁」をいただきながら様々な場所へ走っていく。知り合いの警備会社の社長さんとキッチンカーを並べたイベントを企画したり、お客さんからグランピング施設のイベントに誘ってもらったりしたそうだ…… ▶

飲食店



アジアンキッチン Tantra 田居 史江さん

飲食店



のの食堂 福井 一乃さん・彩乃さん

田園風景が広がる中にある、印象的な赤い屋根の古民家。ここは、大阪から加西へ移住した福井一乃さん・彩乃さん姉妹が経営する「のの食堂」だ。

キッチンの中から明るく仲の良い姉妹の笑い声が軽やかに飛び出し、店内をばあっと染めていく。その楽しげな声を耳にすると、自然と明るい気持ちになれるから不思議なものだ。だが、二人が生まれ育った都会なら、何でも

あって便利な暮らしができるはず。それなのになぜ、加西の“田舎”で食堂を始めたのだろうか？

「『おじいちゃん・おばあちゃんの田舎に帰る』っていうのに憧れがあったんです。私たちは大阪の都会で生まれ育って、父・母もそうだったので」田舎は何もないと言われるけれど、そんな田舎も悪くない。二人は「何でもある都会の暮らしはもういい」のだという…… ▶



福井さんご紹介の続きはこちら



下村さんご紹介の続きはこちら

「0 才から集える場をつくりたかったんです。ママのためにも、子どものためにも」。

2 児の母でもある下村紗織さんは、「0 才からのこども教室」を経営するかたわら、子育てママのためのサークル「baby&Mama サークル Clap」の代表を務める。

結婚を機に、神戸から加西に移り住んだ。学生時代に究めた語学を活かして英語教室をはじめたのは、学校に行きづらくなった子ども

にも英語を教えてほしいという友人の依頼がきっかけだった。「何かひとつでも自信を持たせてあげたい」と、その子のためだけのカリキュラムをつくり、教材の研究もした。

その後、長女を出産し、こんな思いが芽生えた。「自分が育った時代とこの子が生きる時代はちがう。育て方もちがって当然。自分は母親として何をしてあげられるだろう？」…… ▶

子育て / 教育



baby&Mama サークル Clap 下村 紗織さん

飲食店



原始人会 土一七日屋台 水田 健司さん

鳥やカエルの鳴き声が響き、山からは鹿や猪が下りてくる。まさに“ど田舎”といった光景が広がる加西の最北端・上万願寺町。この地に、水田健司さんが店長を務める農家レストラン「土一七日屋台（どいなかやたい）」はある。

生まれも育ちも神戸、今では「土一七日屋台」の店長として料理人を務めている水田さん。だが、初めは「農業がしたい」と加西に来た

そうで、そのキャリアに“料理”の文字はなかったというのだから驚きだ。

農業高校出身、以前に就いていた仕事も農業関係。加西へ来たのは、大橋農園の大橋麻世さんといっしょに畑をつくりたいと考えていたときに、「土一七日屋台」を運営するNPO 法人「原始人会」を紹介されたのがきっかけだった……▶



水田さんご紹介の続きはこちら



前田さんご紹介の続きはこちら

「わたし、めっちゃ前向きなんです。それだけが取り柄。今の働きかたをはじめて、自分の本来の前向きさを発揮できてる気がします」。ぱっと花が咲いたような笑顔でそう話す前田ゆりあさんは、「house studio HALU（ハル）」のオーナー。助産師として病院で働いていた経験を持つ。

結婚で加西に来て8年、住みやすくほどよいイナカのこのまちが好きだ。

在郷町の面影を残す北条町の旧市街地。その町並みに溶け込むようにたたずむ「HALU」は、前田さんが2020年3月にはじめたセルフスタイルの写真館だ。

常駐のカメラマンはいない。ここでは、子どものありのままの表情を引き出せるママやパパがカメラマンになる。スマホや身近なデジタルカメラで手軽に撮影を楽しめるのが魅力だ……▶

フォトスタジオ



house studio HALU 前田 ゆりあさん

ゲストハウス



HOJO MACHI HOSTEL 岩國 万里亜さん

2019年4月22日にオープンした「HOJO MACHI HOSTEL」。かつて在郷町として発展してきた兵庫県加西市の北条旧市街地にあるゲストハウスだ。もとは病院で看護師をしていたというオーナーの岩國万里亜さん。

「凄くやりがいを感じていた」そう話すように、日中は旦那さんが経営するデイサービスで看護師を続けている。一方で、ゲストハウスへの興味も深まり続けていたとのこと。異

なる分野にもかかわらず、どのようなきっかけで「HOJO MACHI HOSTEL」の開業に至ったのか。

もとは洋服店だったというゲストハウスは、長年シャッターが閉ざされていた空き家を「NPO 法人 ZIBASAN」がリノベーションした。補助金の申請をはじめ、ゲストハウス開業に向けて様々なサポートもしてくださった……▶



岩國さんご紹介の続きはこちら



大橋さんご紹介の続きはこちら

加西市の北にあるのどかな山あいのまち・下万願寺町で、身ひとつで地域に飛び込み新規就農した大橋さん。レタスを中心に季節の野菜を栽培している。

自然とふれあうのが好きで、子どものころから自宅の庭で野菜をつくっていた経験もあり、農業の道を志す。農業高校、農業の会社へと進み、いつしか「自分の畑をもって農業をやりたい」と考えるようになったのだという。

「自分で農業をやりたいと思ってからは、とにかく声を上げていって。そうしたらいろんな人が声をかけてくれたんですが、加西以外の地域はよそ者を受け入れない空気もあって、断られてばかりでした」。

最終的には万願寺地域での受け皿となる「原始人会」に出会い、加西の地に足を踏み入れ独立。それからはすぐに地域の中へと入り込み、密な関係を築き上げていった……▶

農業



大橋農園 大橋 麻世さん

住まい / デザイン



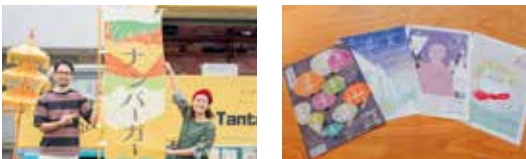
カワイデザインワークス 河合 克俊さん・由紀子さん



まちづくり / デザイン



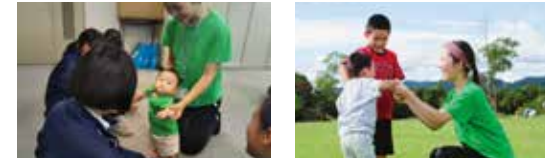
地域おこし協力隊 辻田 聡信さん



子育て / まちづくり



「ママの働き方応援隊」加西学級代表 馬渡 友樹子さん



まちづくり



ローカルプロデューサー 下江 一将さん



大阪で会社員として働いたのち、長男出産を機に U ターン。出産後は子どもと 2 人で家にこもる日が続き、うつうつとした気分になっていたところ、あるコミュニティを見つけて飛び込んだのが「ママの働き方応援隊（ママハタ）」だった。ママハタは、「子育て中がメリットになる働き方を創る」という理念のもと、神戸で生まれ全国に活動が広がる NPO 法人だ。

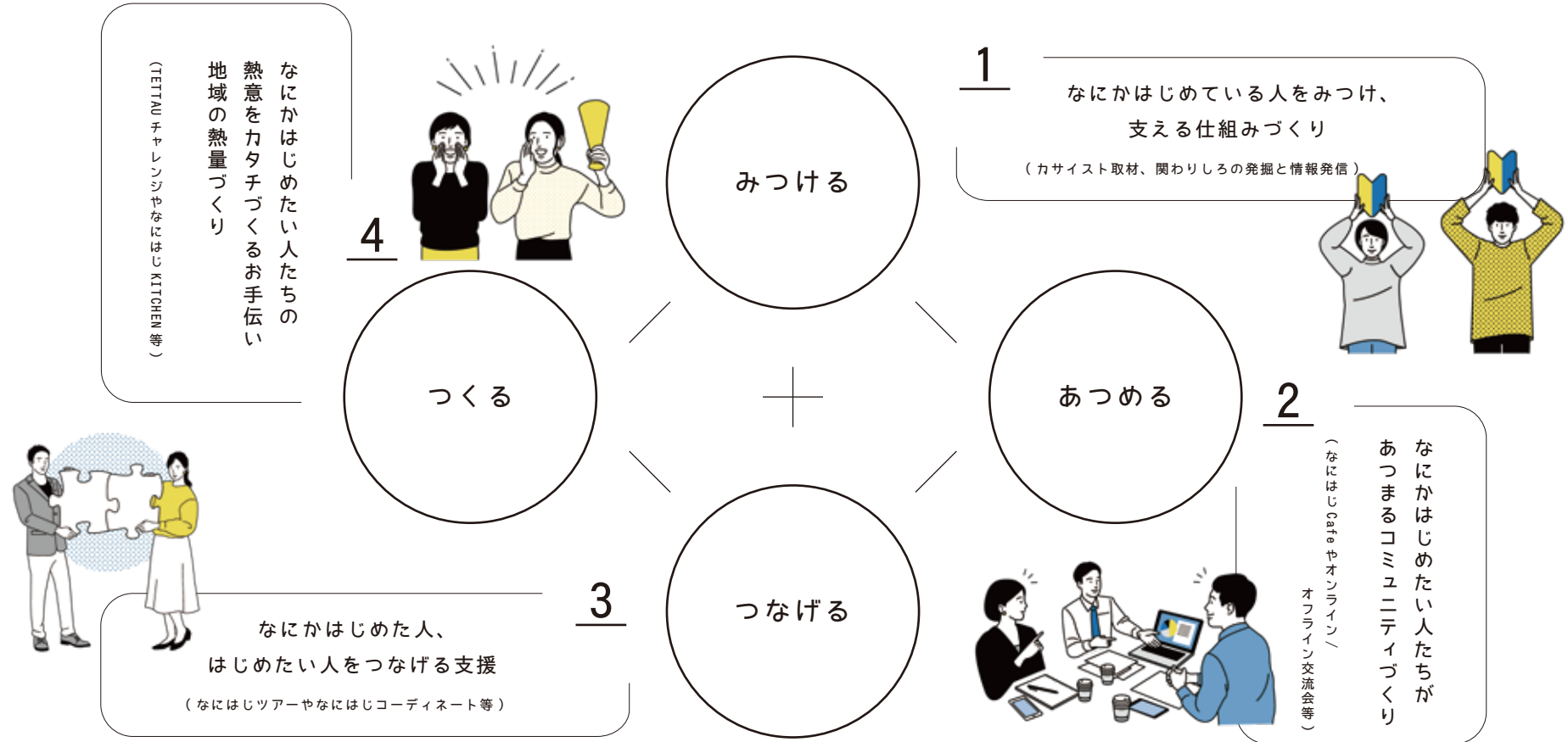
総体的にまちづくりをするローカルプロデューサーとして活動する下江一将さん。「その人が本当にやりたいことを手引きする。繋ぐだけならコーディネーターになるけど、今、目の前にいる人がこんな風になって、まちもこんな未来に繋がっていく。トータルで考えるから、そういう意味でローカルプロデューサー」。



2021 年度 なにはじコミュニティ活動紹介

なにかはじめてたくなるコミュニティづくり

なにかはじめてたい人たちと、地域に眠る原石を見つけ、あつめ、つなげ、つくるお手伝い



ホームページ : <https://nanihaji-kasai.jp> 問い合わせ : info@nanihaji-kasai.jp